

JR東海は厳罰主義を正せ!!

1月14日の新聞紙上を「新幹線運転士眼鏡不使用」の活字が踊った。内容からして、JR東海の発表に基づいた報道であることは明らかだ。報道では、JR東海が厳罰を検討しているとされている。国交省令に違反することは確かに悪いことである。しかし、当事者に対する『厳罰・処分ありき』で良いのだろうか？

安全を守るためには、二度と同じ過ちを犯さない為の対策を講じることが大切だ。当事者にだけ責任を押し付けるのではなく、締め付け主義の異常で劣悪な社員管理や職場環境を変える事こそ重要である。

懲罰配転はやめろ!!

昨年末には、「車掌が運転室で喫煙」という見出しがやはり、新聞紙上を賑わせた。公共交通機関を司る者として起きた事故等を隠さず発表するのは責務ではあるが、これによって行き過ぎた社員管理による労働者の締め付けは社員へのプレッシャーとなり、結果安全を阻害するのである。

「喫煙事件」の運転士は年が明けた1月6日に「戒告」処分を受け、1月7日付けで「東京駅・遺失物取扱所」に配転となった。会社は、この配転の理由について「業務上の必要性に基づくもの」と言っている。乗務員の要員不足が慢性的になり、休日出勤が常態化している今、いったいどこに業務上の必要性があるというのか。明らかに、懲罰的意味合いを持った配転ではないか！当事者は、自ら犯した過ちに対して真摯に反省し、二度とおこさないと誓っている。厳罰主義の労務管理によってJR西日本は福知山線事故を起こした。このままでは、JR東海がこの二の舞になりかねない。

JR東海は、不当配転によって運転士職を奪った運転士を即座に原職にもどせ！そして、眼鏡不使用の運転士を運転職場から放逐するようなことはするな！

私たちは、不当な配転や過酷な処分攻撃には断固としてたたかう！そして、この問題は労働組合の所属別といった垣根を越えて、全ての労働者がたたかいに決起するべきだということを声を大にして訴える！

労働者の尊厳と権利を守るために、安全を守るために、JR

東海に働くすべての労働者は団結しよう！